

成仁福祉だより

第38号
発行
平成30年3月
成仁地区福祉
推進協議会

温かな雰囲気、気持ちでつながる

福知山市立成仁小学校
教頭 芦田

木々の芽が吹き、躍動の春がやってきました。成仁学区の皆様には、口頭より本校教育活動の推進に大変お世話になっておりますこと感謝申し上げます。

さて、今年もお世話になった6年生に感謝の気持ちを伝えるために、ありがとう集会を行いました。各学年から精一杯の歌声やメッセージで6年生への思いを振り返り、ありがとうの気持ちを伝えました。そのオーケストラは全校合唱。今年度は「あひなうひのた」の2曲を歌いました。

ありがとうって言ったら
みんなが笑ってる
その顔がうれしくて
何度もありがとう
町中に咲いてる
ありがとうの花
風に吹かれめしたに
とんでいく
ありがとうの花が咲くみ
きみの町にもほらいつか...

編

人と人のコミュニケーションの
第一歩はあいさつや言葉かけです。
このあいさつや言葉かけは、

いろいろな言葉がありますが、その中の一つ、「ありがとう」という言葉には大きな魔法があります。それは、「ありがとう」という言葉の響きがとてもよく、聞き方も言われる方もとても気持ちよくなるということです。

私事ですが、自分では、ありがとうという言葉を努めて言うようにしています。例えば、重い物に行った時、リフトでおしりをもちらしたら「ありがとう」の一言は欠かせず返すようにしています。すると相手の方は「どうもねえです。はじめは恥ずかしい気持ちがありました。慣れてくると自然に言葉が出ます。今回の全校合唱の曲もただ歌うだけでなく、歌詞の意味を考えて口頭から実践できる温かい気持ちで人とつながっていくように思います。

さて、話題は変わって、今年度もセーフティネットの皆様には、毎日の登下校の安全、防犯ハトロールなど子どもたちや地域の安全のために大変お世話になりました。普段私たちが、安全なことが当たり前のよう

面があります。実は、こういった何もない安全な状況こそありがたいことであって、何かあってから動くのでは遅いのです。

「存じの通り、この安心・安全を守る活動は、誰かが指示してやるものではなく、すべてがボランティアとして活動していただいていることで成り立っています。学校の安全指導をよく見守ってくださることは「自分の命は自分で守る」ということです。自分の身は、最終的には自分で守るしかありません。このことを地域レベルに広げていくには、やはり、それぞれに地域の皆さんが、自分の子も他人の子も地域のかげがえのないまじりあえ、地域の安全のための主体者であることを再認識していただくことが大切です。言葉を使い換える「地域の子どもは地域で守る」といってほしいでしょうか。子どもたちを安心・安全に包み込んでいただく温かな雰囲気、そして行動力が、地域の安心・安全そして福祉につながることを願ってやみません。



成仁公民館の活動を振り返って

成仁地区公民館
主事 松本

成仁地区にお住いの皆様、いつも公民館活動にご支援、ご協力を賜り、誠にありがとうございます。

私が中坂町に住み始めて三年が経った頃、思わぬ形で仰せつかった主事の大役ですが、あれから二年の月日が過ぎ、この三月で退任となります。当初は顔見知りの方も多く、公民館のことをほとんど理解していなかった私は、何をしようかわからず、ただつらさを覚えているばかりの日々でした。そんな中、「何かあったらいつでも相談してね」とか「現役で大変だけど頑張ってください」と地域の方々から暖かい言葉を掛けていただいた際、とても励みになりました。これまでで行事をこなしてゆくのが精一杯で、あまり公民館のことについて振り返る余裕がなかったです。この機会に公民館事業の紹介も兼ねて振り返ってみようと思います。

成仁地区公民館の行事は、六月のあいさつ運動に始まり、七月の親子ボールパレー、子供園遊会、プー

ル祭り、防火防犯パトロール、八月の夏祭り、次々に行われます。特に夏祭りは、地域が一丸となって取り組むイベントで、大変ですが最後の花火で子供達の笑い声や歌声を聞く、とても達成感があります。夏祭りの次は、敬喜会が和やかな雰囲気の中で行われます。そして運動会、秋祭り、そば打ち体験教室、日新ふれあい祭りと続きます。残念ながら、今年度は秋に雨が多く延期や中止が相次ぎました。年が明けて子どもカルタ大会、囲碁将棋大会をもって行事が終わりです。

私は約2年間、これらの公民館活動に携わってまいりましたが、とても貴重な経験をさせてくださいたいと感じています。この行事も参加してみれば楽しい行事ばかりなのではないでしょうか。ぜひ来年もぜひ参加してほしいです。今年度は「六五歳以上とをわけている高齢者の定義を七五歳以上に見直し、前期高齢者の六五歳以上は『准高齢者』として社会の支え手と捉え直すよう求める

提言をした」というニュースを耳にした方もいらっしゃるかと思います。医療の進歩や生活環境の改善で、十年前に比べて身体の動きが若返っているというニュースが、定義はともかく、「どう年を取って行くか」ということはすべての人に共通する思いではないでしょうか。なるべく健康を保ち自分らしく過ごした

リニアを前に

成仁地区福祉推進協議会
事務局

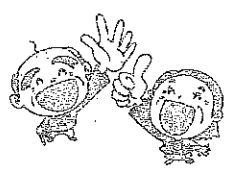
従来「高齢者の集い」として開いていたものを、今年度から「こころの会」と名前を変えて、十一月二十五日に平野集会所で、二十八日に成仁集会所で開催しました。

成仁地区には六十五歳以上の方がおよそ六百人居ります。これらの方々には福祉や防犯についての知らせを伝え、また相互に知り合いになり近況を語り合い無事を喜び合い、楽しいひと時を過ごしてほしいです。毎年一回開いていきます。今年度は、参加者が例年よりもやや少ない一か所を計九十名が参加しましたが、「エンディングノート

めには、活動的な生活をすると、運動を始め、積極的に社会参加するなど、身近なことから始めていくのが大切です。そうすると、お住まいの公民館の活動そのものなのです。ぜひ積極的にご参加いただけますことを心よりお待ち致します。

や「安心生活見守りキーホルダー」の説明案内の後、認知症予防のフリーAゲームの紹介、マジックショー、三味線演奏や民謡ショー、じゃんけんゲームなどで楽しみました。

(添付写真参照ください)
平成三十年も十一月末に開催予定をしておりますので、ぜひの方が参加していただくといいと思います。



一月の断水について

成仁地区福祉推進協議会
事務局

家庭という連絡網を確立させておくべきだった。

市の安心メールが役立つ。

友人知人からの情報が早くて確実だった。

平野町の給水車の配置場所を集会所の駐車場にしてほしかった。

理由として、

①高等技術専門校の入り口が分からなかった。

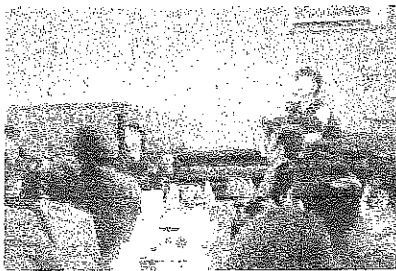
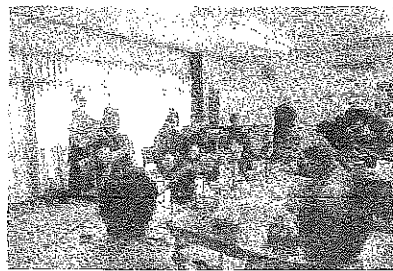
②集会所は平野町のほぼ真ん中にあること、皆が場所を知っているから。

【水の取得】

足が不自由なので、給水所まで行くことができなかった。民生委員さんや近所の方に助けってもらって、確しかった。

凍結や雪の轍などで路面状態が悪く、給水車が来ている所まで行けない高齢者もおられました。

平野町自治会長さんから「非常時用の水が集会所にあるから、給水所



としごろ会の開催風景

先日大規模な上水道の断水があり、再給水が始まってからも濁りが長く続き、不便を強いられました。事務局で聞いた皆様の感想や不満を列挙します。度々あつてはならないことですが、災害や事故で困ることが少しでも少なくなるように、個人でまた諸団体が今後の備えを検討するときの参考にさせていただきたいと思えます。

【広報】

広報車で、断水状態にあることや給水車の配置場所、再給水、濁りなどを、知らせて回ってほしかった。(市の広報車が来た?一度来ただけ?)

町内放送があつたが、よく聞こえなかった。時間をあいて数回放送されてもよかつたのでは?設備のある地域)

町内放送設備を設置して、放送報知して欲しい。(設備の無い地域)

自治会長―主役員―組長―一般

に行けない人に配って。一日中集会所に詰めているから」と連絡をいただき、民生委員3人で、水(2ℓ)とお茶(500ℓ)各1本のペットボトルを持って独り暮らしの高齢者さん宅を中心に訪問したり、電話で様子を伺ったりしました。

「給水車まで行けない」「お茶を飲まずに我慢している」とおっしゃるお宅には給水車の水(6ℓ)を届けました。

復旧後も、半日ほどは濁水が出て飲食には適さないことや給水車から買ってきた水は足りているかなどの確認の電話も入れました。

しかし、非常時に民生委員3人だけで平野町・中坂町の状態を把握し、行動するには限界があります。

他の地域では、組単位で「非常時連絡網」を作っておられる自治会もあると聞きました。

高齢者さん宅を訪ね回っている」と隣の人が水をもらってきてくれた」と言う声を何人かから聴きました。

『隣近所に気を配り、いざと言う時には手を差し伸べてくださる方もおられる』と嬉しいと思った一日でもありました。

・困ったときにはお互い様という考

え方が、根付いてきています。

・困っている家庭に対しては、いわゆる向こう二軒両隣の(近所パワー)で助け合える地域にしましょう。

【受水槽設備】

中層住宅等受水槽がある場合、断水したときや再給水のと看にどのよつな処置が必要なのか知つていゝる人が少なく、必要な処置が遅れたり不便が長引いたりしたことがあつた。

・断水しても受水槽に水がある間は通常に水が出るが、そのうちに水が止まつてしまうので節水に努める必要があります。

・再給水時に濁り水が受水槽に入つてしまうと、長期間濁つた水が出てくることになります。

・それを防ぐために、断水時に受水槽への給水弁を閉じてしまつて処置が必要です。(手動?自動?)

・再給水時に濁りが無くなつてからその弁を開く必要があります。

・この再給水時の処理がまずいと、何時までも水が来ないとか長期間濁り水が出続けるということになります。

【水の備蓄】

備蓄水が役立つた。

備蓄水の消費期限が過ぎているのに気付いた。(雑用水に使つた)

風呂の水を残しておいたので、トイレ等雑用水に役立つた。

最後に入浴した人がふるの湯を抜くようにしていたが、今後は残しておくようにした。

積もつていた雪を溶かして生活雑水に使つたが、手間がかかり大変でした。

今後の備えとして、空きペットボトル数本に水道水を入れておいておくようにした。(雑用水)

今回のことを機会に、備蓄食料の見直しや消費期限の確認を定期的に行うようにした。

「給水車から買つてきた水は保存がきかない」ということをしっかりと伝えることも大事。

「このまま置いておく」と言われる方もあつた

飲み水や給水用タンクを買いに行つたが、近くの店では品切れになつていた。

・備蓄食料や備蓄水は、消費期限前に順番に使つてしまい、新たに補充するという使いまわし備蓄がお勧めです。

・備蓄品は、特別な品や専用品でなくても、日常用品を少し多い目に持つておくという方法が便利です。

・備蓄量は、最低でも三日間の間の一家での使用量を準備しましょう。

・さらに大規模災害にも備えるためには、一週間分の備蓄が推奨されています。

【復旧後記】

赤ちゃんや小さな子どもさんのある家庭も状況確認が必要だったので、復旧してから気がつきました。(ミルク用の水は足りていたのか。給水所まで行けたのか等)

復旧後、まだ濁水が出ている中「朝起きて水道を捻つたら水が出たから飲んだ」と言われた方もあり、「復旧したからこれでもう大丈夫」ということではないということを知られました。

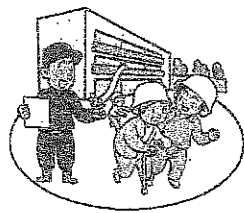
今後の非常時に備え、自治会の対応の仕方も検討・決定していただきたいと痛感した二日間でした。

自治会長さん 寒い中、一日中集会所に話めてくださり、ありがとうございます。

断水で大混乱したが、他に地震・台風などの自然災害や長時間停電等が発生した場合のことを想定しておく必要があります。

「水が出ない」とか普段と違うことが起きた時、まず隣近所にたずねてみましょう。自分の家だけのことでないと分かつたら自治会に情報が入つていないか確かめましょう。

給水所が設置されると分かつても、自分の力でもらに行けないときは民生委員等に相談してみましょう。対策はじつと待っているだけではなく自分から「助けてほしい」と電話なども使つて声を出しましょう。



福祉だよりについてのご意見質問等は、仁井内や野本 あるいは他の役員までご連絡ください。